

特集 3月21日リニューアルオープン 五彩の館に生まれ変わった 新たな九谷焼資料館

昨年11月からリニューアル工事(第一期)をしていた能美市九谷焼資料館がこのほど竣工します。開館以来35年を経ているので大型改修となりました。

2020年東京五輪&パラリンピックを迎えるにあたり、多くの方々に訪れていただけるよう「来館者にやさしい、おもてなしのミュージアム」をコンセプトに常設展示の充実・バリアフリー化・国際化への備えなど時代の要請に応える改修に心掛けました。

新しくなった資料館は、紺青・朱赤・紫・緑・黄の色壁別の五つの部屋(展示室)で構成されています。

ロビーギャラリーが新設
市民の発表の場として利用
できます。



●多目的トイレ内に音声ガイドやオストメイトが新設されました。



●高齢者や車イス利用者対応のエレベーターが新設されました。

●授乳室が新設されました。

陶磁器関係の図書閲覧コーナーが誕生
資料館元館長塚谷典一氏ご遺族から寄贈された陶磁器専門図書を「塚谷文庫」として一般開架します。

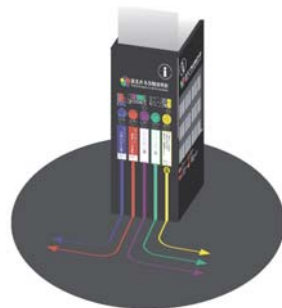


部屋の壁紙には、土壁風のものを使用。作品を陳列するショーケース内などは、作品が映えるような落ち着いた色の和紙風の壁紙を使用しています。(写真は全て工事段階のもの)

わかりやすい館内サイン

入り口を入ってすぐに、総合案内サインの柱があります。館内サインはユニバーサルデザインの観点から視認しやすいフォントを使用し、多言語表記となっています。

館内の床には、展示室への道がわかりやすいように、カラー矢印をの誘導サインが取り入れられます。



←トイレサインなどのピクトグラムには九谷焼を使用する予定です。



中矢進一館長

江戸時代より加賀では貴人や賓客を迎える特別な部屋は色壁でした。加賀藩前田家ゆかりの建築物や由緒ある茶屋など「おもてなし」の空間に使ってきた伝統があります。豪雪で色のない北陸加賀の冬を色鮮やかに過ごす工夫、それが「おもてなしの心」として生きているのです。九谷五彩(紺青・赤・紫・緑・黄)にも色壁に相通ずる美意識が存在しています。その色壁の空間を展示室に生かしました。

皆さまに喜んでもらえるような工夫を各所に盛り込んでいますので、ぜひ来館ください。

3月21日(水・祝) リニューアルオープン!

リニューアルに合わせ、21日は無料公開します。一般公開開始は12時からです。(17時まで)

ロビーギャラリーでは「館蔵九谷焼と生け花展」「書家久田鶴南遺墨展」を開催します。

多くの市民のみなさんので来館をお待ちしています。

【九谷焼資料館のご案内】

開館時間

9:00~17:00 (受付終了は16:30)

入館料

大人 430円
75歳以上 320円
高校生以下 無料

団体(20名以上)

大人 370円

※障がい者と介護者1名は無料。
※九谷焼資料館と浅蔵五十吉美術館は共通の入場券です。

ボランティア・ガイド 新規募集!

リニューアルにともない新しい資料館を案内して下さるボランティア・ガイドを新たに募ります。詳細は後日、広報でお知らせします。

問い合わせ

九谷焼資料館 ☎ 58-6100

5. 「黄色の間」
(常設企画展示3)
九谷焼制作工程展・図書閲覧・映像視聴コーナーなど。エレベーターで2階のこの部屋に直結します。

4. 「緑の間」
(特別企画展示2)
特別展や個展、団体展などの部屋です。「紫の間」と連絡口で直接繋がっているため、出品点数が多い場合、同一テーマで両部屋同時利用が可能です。5月6日までは「第41回伝統九谷焼工芸展」が開催されます。

3. 「紫の間」
(特別企画展示1)
特別展や個展、団体展などの部屋です。「緑の間」と連絡口で繋がっています。

2. 「朱赤の間」(常設企画展示2)
「赤絵九谷名品展」(赤絵細描、金襴手やジャバクタンニの赤絵九谷を中心に)「マントルピース」のディスプレイ
明治期の貿易九谷「ジャバクタンニ」はなぜ対物が多いのか。その答えは欧米の人々の暮らしの中で「マントルピース(飾り枠のある暖炉)」に飾るシンメトリーなディスプレイにあったのです。それを体験できるジオラマ展示を朱赤の間に!

1. 「紺青の間」
(常設企画展示1)
「色絵九谷名品展」(五彩手、青手様式の色絵の九谷を中心に)床の間のしつらえを新設、生け花で来館者を迎えます。